

# 富士河口湖町立 教育センターだより

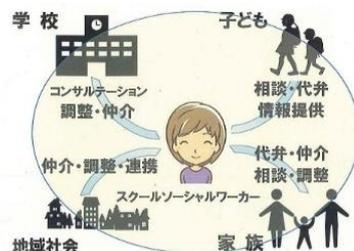
No.16

平成30年12月5日

文責 渡辺富美夫



## 子どもたちの笑顔のために スクールソーシャル ワーカーの活用を



**子ども・家庭・教職員が  
やささえる**  
児童生徒本人や家族への面接、家庭訪問を通して、社会福祉援助の視点から関係調整を行い、支援します。また、教職員に対しても、情報提供や相談に応じるなどのサポートに努め、負担軽減を図ります。

町立教育センターにおける主な活動の1つとして教育相談があります。「学校にいけない子どもたちの居場所」「再登校に向けエネルギーを充填する場」「進級進学に向け学力を保証する場」としての役割を果たしてきています。そのためには、保護者・学校との連携は欠かすことができません。その連携に大きな役割を担ってくださっているのが、SSW（スクールソーシャルワーカー）です。

富士河口湖町では、独自にSSW（渡辺博子さん）が雇用され、学校・家庭・関係機関・町教育センターなどをつなぐため、日々奔走しています。そんな忙しい中で、当教育センターでも、子どもの対応を一緒にしていただく、相談に乗っていただくなど、まさに、支えていただいています。当然、当センターだけでなく、多くの学校が助けられていることと思います。

**学校・家庭・地域が  
つなぐ**  
児童生徒やその家族を支援するため、関係者のネットワーク形成を行います。そして、児童生徒が抱える課題に対して、本人をとりまく人々と連携しながら解決を図ります。

**よりよい地域社会を  
つくる**  
児童生徒をサポートする人的資源や機関が十分に整うよう、行政や関係機関に働きかけ、地域でのサポート体制を構築します。児童生徒たちの生育、発達にとって安心で安全な地域づくりに努めるのも役割です。

しかし、多くの事例（資料1）があり、一人のSSWだけでは対応するのは厳しい状況です。学校では、SSWによってつなげられた関係を生かし、アドバイスをもとに子どもたちの笑顔のために取り組んでいます。当教育センターでも、SSWからご指導を受けながら、今後も教育相談活動を進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

資料1 平成30年度SSW支援状況(11月末現在)

<SSW相談依頼ケース>				
学校から支援依頼を受け、養育環境、貧困、疾患・障害、不登校・引きこもり、友人関係等様々な課題に対して関係機関と共に支援を行っています。				
	小学校	中学校	高校	合計
ケース数	51名	15名	2名	68名

<就学相談・教育相談>						
支援を必要としている子どもたちの相談を就学相談員と共に支援を行っています。						
	保育所・幼稚園	小学校	中学校	合計		
ケース数	26名	13名	2名	41		
	面接	家庭訪問	子ども観察	巡回訪問	会議	関係機関訪問
30回	1回	11回	6回	7回	20回	

子どもたちの笑顔のため、多くの子どもたち・家庭・学校・関係機関とかかわってくださっていることがわかります。資料では、人数が示されていますが、それぞれ何度も何度も対応してくださっているのですべて、とても多い数になります。